

議会報告会実施報告書

開催日時	平成26年4月26日 13時00分 ～ 14時20分
開催場所	与島開発総合センター
出席議員	(班長) 東山光徳 (司会) 脇 芳美 (記録者) 松成国宏 (議長) 大前寛乗 (副議長) 若杉輝久 (班員) 斉藤義明, 出田泰三, 若谷修治, 脇 芳美, 松成国宏, 東山光徳
参加市民数	30人
実施内容	<p>議会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開会挨拶 大前寛乗</li> <li>・出席議員自己紹介</li> <li>・新年度予算の概要 斉藤義明</li> <li>・委員会報告 総務消防委員会 斉藤義明 教育民生委員会 若谷修治 市民建設委員会 出田泰三</li> <li>・質疑応答</li> <li>・意見交換会</li> <li>・閉会挨拶</li> </ul>
	<p>質疑応答</p> <p>&lt;質疑&gt; 先ほどの説明の中で、市内の全域に光ファイバーが整備されると聞きました。島の現状は。</p> <p>&lt;答弁&gt; これは、民間がやる事業で、今どんどん光ファイバーが利用できる所が、増えてきています。島しょ部、王越等は民間ベースでいくと、中々、採算がとれない。それで、市からも補助して坂出市内全域に光ファイバーが利用できる状況にしていく事業です。今後5年間かけて整備していきますが、どういう順番で整備していくかは民間と協議して決まりますので、櫃石や与島などにいつ整備されるかは今のところはっきりしていません。</p>
意見交換	<p>&lt;意見&gt; 瀬戸内国際芸術祭を、次回も島しょ部で開催していくと思うが、地元の活性化という事で期待している反面、我々、世話をする者にとっては、なかなか負担にもなる。あまり、ボランティア、ボランティアと言ってするのも、皆さん、大変な事も事実としてあるが、前回と同じようなやり方を考えているのか。</p> <p>&lt;答弁&gt; 当時私は市のPTAの会長をしていましたので、市のPTAと市の子供会共催で親子でもって200人規模の「坂出親子おてつ隊」を結成させて頂いて、瀬戸芸坂出の実行委員会そして、実際の瀬戸芸の中でお接待をさせて頂いたりとか、一緒に芸術を楽し</p>

んで、ワークショップをさせて頂いたりしました。先ほど、お話があった通り、我々も、本当に1年以上、瀬戸芸に関わって、大変だったなというのはありました。しかし、良い経験をさせていただいたなというところもあります。今後やはり、皆さん、住民の方、また、各団体のご協力をいただきながら、2016年の瀬戸芸も、おそらく、この島しょ部で行われると思いますけど、それぞれ、出来る限りの負担の中で、するべきではないかなと思います。我々も、最初なので、力を入れて、もう、正直、PTAの役員も子供会の役員も悲鳴をあげるくらいやってしまったのですが、次は、無理はせずに、持続可能な関わり方を考えていきたい。市の実行委員会の中で、各団体と話をしながら、長く関わっていけるように、進めるべきではないかなと思っています。しかし、この様な活動をすることによって、其々の団体がその組織力を維持するという、つながりが出来るというのを私自身経験しましたので、その無理なところのせめぎ合いですね、どこまでやるのか、という事は、その時々役員さんを中心に出来る限りの中で、関わっていくべきであると思います。

<答弁> 今、「こうやります」とはなかなか言えないのですが、実は、坂出で今年度中になろうかと思いますが、市民の皆さんにまち歩きや里山めぐりという事をやっていただくことになっています。その中でリーダー的な人を作っていこうということで、観光ボランティアガイドの養成講座を開催予定です。こういう団体が例えば2、3年先に、お手伝いに、色んな形で加わるのではないかなとも思っています。どんどん、とにかく市民共働という事で、皆様方に積極的にまちづくりに加わって頂く。瀬戸芸に直接関わるもの、あるいは、そうでないもの、関連の協賛事業でありますとか、皆さんが例えばそれを生かして、自分たちの島であるとか、「こういう事をやりたいんだ」と、積極的に、手を挙げて頂く。関わっていただいて、それに対して市民が一緒になって、参加していく。そのために、にぎわい創出事業補助金の制度も設けていますので、色んなものを、縦糸にしながら、いろいろなかたちで、地域の知恵を横軸にして、絡めていくと、個性的なまちづくりが出来るのではないかなと思っています。ですから、決して無理をせず、しかし、自分達も楽しみながら、イベントに参加して頂く。そういう事が高齢者の生きがいにもなっていくのではないかなと思いますので、是非とも皆さん、加わって頂いて、一緒になって坂出の町を盛り上げていきましょう。

<意見> 瀬戸大橋の通行料金が下がり、車を使っている人は大変喜んでいるが、車を運転できない年寄りの方はバスを利用しな

いといけない。尚且つ、岩黒の場合は、バス停が橋上に有るため、バスに乗るために坂道を登って行かないといけない。買い物をして帰ってくると、バス停が反対側にあるため、橋の下のトンネルをくぐって、又、エレベーターに乗って家まで帰らないといけない。それが苦になるから、わざわざ、坂出で買い物をして、児島へJRで渡って、向こうから、わざわざ、児島発のバスに乗って、エレベーターになるべく近い所で降りて島の方へ帰ってくる人も中にはいます。島としたら、市内で走っている小さなバスを乗り入れるようにしてもらった方がいい。みんな、小さなバスだと降りられる。与島、櫃石に限っては今、普通の大きなバスでも島内に入って家の前までバスが来るが、岩黒の場合は橋の上。これを、何とか考えて欲しい。尚且つ、年寄りが増えてはいるが、バス停まで行くのが大変なために80過ぎた人でも車で移動する方もいる。市の方では「乗り合いバス」とか、「コミュニティーバス」とか「タクシー」が有る。島の方では、今の所、配置されてないが、何か対策を考えてほしい。

<答弁> 今、会長さんがおっしゃった通り、高齢化も進み、本当に、地元の皆様方にとっては大問題であると認識をしています。我々も、市当局と、もう何年も前から、検討を重ねています。始めに、大型バスはもちろん通らない。という事で、検討外なのですけれども、小型バスにしましても、バス購入代金は別として、継続的に運航するためには、人件費が大きいので、継続的に運航するには無理がある。もう一つの懸案が高速道路というのは、車中で立つ人がいるといけないのです。全員、座ってもらわなければいけない。小型バスで座席数が少なく、立つ人が出るといけない。朝、夕方、学校の先生と、ご利用になる時に、立つ人が出るのではないかと。この点も、しっかりと検討していかなければならない。今、既存のバス会社が運行していますが、そこで、小型バスを導入して頂くのが、最も早いとは思いますが、経営的な面もあります。また、市直営で行う場合には、既存のバス会社との兼ね合いも考えなければいけない。という事で、様々な問題点があるのですけれども、決して「あるから、放っておく」というのではありません。私どもも、しっかりと、課題を検討して、同じ坂出市民として、皆様方が暮らしやすいようにするというのが、我々議会、あるいは行政の責任でありますので、その辺につきましては、さらに詳しく、しっかりと検討して参りますので、しばらく、ご猶予をいただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

<要望> 与島は、非常に高齢化して、若い人が住まない。消防

団員も非常に少なくなっている中で、どう、島の防災を維持していくのか。これが、一番大きな課題になるのです。今、橋が架かって、「常備消防が来られる」というけれど、これも、災害時に、100%あてになるかどうか分かりません。今、現在、島外に住まれている方で、与島出身という方で2名が消防団員として活動しているが、消防本部が来る方が早いような気もする。そこで、消防団を退団した人達や元気な女性軍も入れながら、何か一つ組織を作りたい。ポンプ車の使用についても消防本部とよく話をしなければならぬ。それ以外にも、担当部署と色々、ご相談していきたいと思います。その節は、皆さんのお力を十分にお借りしたいと思いますので、宜しくお願いしておきます。

<答弁> これは単に、与島だけの問題ではなく、坂出市内においても、非常に消防団員の数が減っている。若い人に中々入って頂けない。消防団活動についても関心をもつていただくために、「チームコスモス」が結成されました。重要な問題でございまして、総務消防委員会としても、どのように増やしていくかという事は、色々、議論しています。消防団員だけに頼らずに、どうやっていくのか、自主防災組織をいかに活用できるか。本当に、有効に動ける体制に出来るかというのも、大きな問題であろうと思います。そういった点も踏まえて、消防、危機監理室を含めて相談をして良い方向にもっていききたいという気持ちでいっぱいです。すぐに、「はい、こうします」とは残念ながら申し上げる事が出来ませんが、重々、貴重なご意見、問題として捉え、やっていきたいと思いますので、よろしくお願ひします。